

共に未来を育てるために

進路指導の現場から

第7回

低学年時から 勤労観・就労観を育成

——進路指導の方針について、
教えてください。

本校は1学年10クラス400名規模の普通高校です。4年制大学の進学率は約8割。その他の生徒は短大や、主に医療系の専門学校に進学します。

進路指導部が掲げる目標は、「生

徒一人ひとりの希望進路を実現させること。それに加えて昨今は、「社会人として生きていくうえで勤労観、就労観の育成」に力を入れていきます。将来の働き方を自分なりに明確にしたうえで、大学での学びに目を向け、進学先を選んでほしいと考えるからです。

そこで、1年次の夏に、本校の卒業生に自らの職業について話してもらおう「ようこそ大先輩」とい

う講演会を実施しています。ビジネスマンをはじめ公務員、教員、保育士、パティシエなど、さまざまな職種の卒業生を招き、仕事の内容ややりがいについて話してもらいます。職業への理解を深めることはもちろん、「どんな仕事でも、社会的責任があること」を知ってもらおうのが狙いです。

次のステップとして、2年次にオープンキャンパスに参加させます。各大学の特徴を知るといっても、「学部・学科で学ぶ内容を深く理解する」のが目的です。

というのも、最近は学部・学科の名称が多様化していて、「マスマディアの仕事に就きたいから、メディア○○学部を志望する」といったように、名前のイメージだけで志望を決めてしまう生徒も見られるからです。しかし、重要なのは名称ではなく、学びの内容です。「希望の職業に就くには、どういったルートがあるのか」「大学で何を学んでおくべきなのか」を、早い時期から考えさせることが大切です。

地元志向が強い一方で 海外に目を向ける生徒も

——進学実績を見ると、九州工

福岡県立筑紫中央高校 進路指導主事 前田勝範

まだかつのり●教員歴25年。専門教科は国語。2016年度より進路指導主事。指導にあたる際のモットーは「一生懸命頑張っている普通の生徒が自己実現できる環境をつくってあげること」。



多いようです。生徒の地元志向は強まっているのでしょうか。

本校の場合、地元大学への進学率の高さが、生徒や保護者に評価されている面があります。そのため、「地元で進学したい」という希望を持つ生徒が多く入学してきます。ただ、それを差し引いても、年々、地元志向が強くなっているように感じます。

もちろん九州エリアの大学でも、学べる学問分野は充実しています。しかし、いろいろな地域から学生が集ってくる首都圏の大学のほうが、さまざまな面で刺激を受け、成長につながることもあるでしょう。九州エリア以外の大学にも目を向けるよう、教員側から

も面談時に、アドバイスを与えたりしています。

また、生徒に刺激を与えるという意味で、今年から全学年を対象とした海外派遣事業もスタートしました。アメリカ東海岸（ニューヨーク、ワシントン）へ10人の生徒を10日間派遣し、現地の大学を見学させる予定です。参加者は面接、小論文、英語力で選抜し、費用の一部は高校が補助します。今年40人の希望者が出ました。

——内向きな生徒がいる一方で、海外に目を向ける生徒も増えていくということでしょうか。

前年、本校から2人、アメリカとカナダの大学に進学しました。もともと海外志向の強い家庭の生徒でしたが、グローバル化が進む中、本人たちも英語が話せること、異文化を体験しておくことの重要性を実感したうえでのことではないでしょうか。

——進路選択における保護者の関わり方に、変化を感じますか。

保護者の意見の影響が強くなる一方で、「子どもは将来なのだから、本人の言う通りにさせてあげたい」という方も増えてきていると思います。ただし、

すべてを生徒任せにしてしまうと、早期に受験科目を絞ってしまったり、早く進学先を決めたいがために推薦入試に逃げてしまったり、成績に悩み大学進学を諦めたりする生徒も出てきます。本校では年に1度、保護者向けの進路説明会を開き、「キャリア教育は生徒たちが社会で生きていくために必要な力をつけさせるためのもので、保護者も協力してほしい」と伝えています。

2020年度に向け 授業の再構築が進行中

——大学入試が大きく変わる2020年度に向けて、指導を変えている部分はありますか。

単純な知識のアウトプットでは

対応できなくなるでしょうし、「話す」「書く」といった表現力も求められるでしょう。本校では本年度から、新たな大学入試に対応するため、従来の「総合的な学習の時間」を再構築し、探究心を伸ばす課題研究や表現力を培う小論文学習の時間を増やしています。

また、アクティブ・ラーニング型授業を増やすべく、全ての教室に電子黒板機能付きプロジェクトターを配置し、図版や動画を活用した授業改善に取り組んでいます。教科学力のさらなる向上のために、これらは特に力を入れていきたいと考えます。

大学には、このような授業を受けてきた生徒を、さらに伸ばすような教育をしていただくことを期待しています。

まとめ

地元志向が高まる一方で
海外大進学を
視野に入れる生徒も

高校では入試改革に
対応する授業を
すでに開始している

高校訪問 ワンポイントアドバイス

APで求める学生像を 具体的に説明してほしい

高校訪問の際、大学の方に説明していただきたいのは、「具体的にどのような学生を求めているか」です。もちろん、アドミッションポリシーは気にして読んでいますが、抽象的で内容がわかりづらいと感じます。「総合的な学習の時間」でも、AP研究の時間をつくりたいと思っています。ですから、APを具体的にかみ砕いて説明してもらえるとうれしいですね。

●福岡県立筑紫中央高校 ▶1917年、筑紫実業女学校として開校。2017年の100周年を機に、ICTの導入、海外派遣の実施など、新たな取り組みに着手 ▶2017年度卒業生の合格実績は国立大学41名合格(現役のみ)、私立大学の主な進学先は、西南学院大学、福岡大学、同志社大学、立命館大学、関西大学、関西学院大学など。